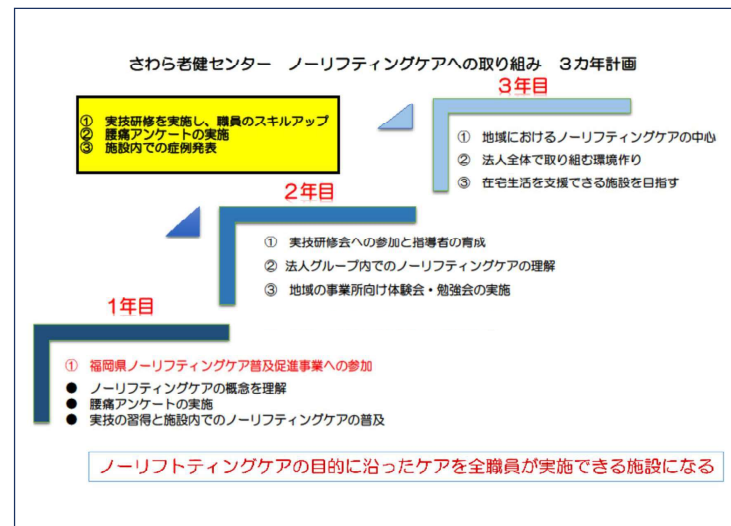


『ノーリフティングケア3年目の挑戦！』 ～地域への普及と施設での3年目の取り組み～

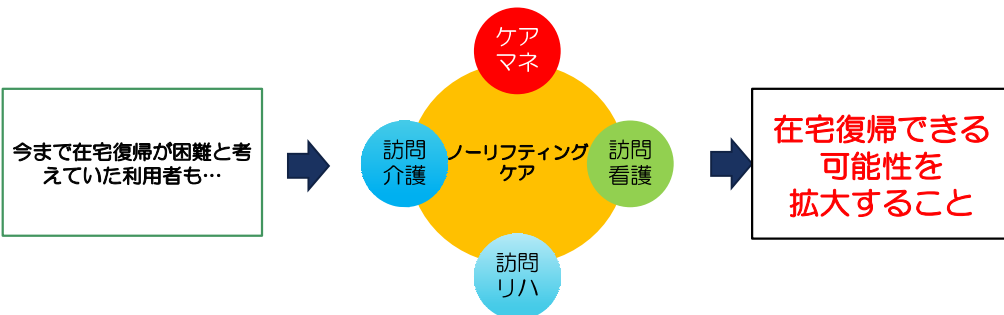


社会医療法人 福西会
介護老人保健施設 さわら老健センター



介護老人保健施設の役割
在宅復帰・在宅生活を支援する施設として

介護老人保健施設の役割の一つ ⇒ 『在宅復帰』



在宅復帰される利用者家族への福祉用具の説明



在宅復帰に向けてのカンファレンス
施設での利用者の様子、家屋調査時に
問題として挙げられた点などについても
説明。
また福祉用具の説明や使用方法なども
行っている。

さわら老健センター2年目の振り返りと施設での課題

良かった点

- ①業務の改善、福祉用具を利用することでの負担の軽減。
特に浴室リフトは介助負担が激減した。
- ②スライディングボード、電動ベッドの台数が増加したこと。
福祉用具を利用しての介助を先に検討するようになった。

課題

- ①介護職員の中に実技研修を受けた職員、実技指導を行える職員が少なく実技講習が思うように進まない。
- ②職員間のノーリフティングケアに対する意識の差があること
- ③腰痛リスクの高い職員が減少していないこと

施設の取り組み

3年目の計画

- ①職員教育
- ②腰痛者への面談
- ③在宅復帰利用者への支援



※以前のような集団での実技指導ができない

施設内での課題 職員教育について

実技講習

- ① 職員退職により思うような指導の時間が取れない。
- ② リハ職員、基本技術講習受講者だけでは指導する余裕がない
- ③ 新入職員、派遣で採用された方の研修体制が整っていない。
- ④ リハビリ職員、コアメンバーの負担が大きい。

施設内での課題 職員教育について

職員指導の改善策として

- ・コアメンバー、サポートメンバーに対して実技講習終了者、リハビリ職員が再度講習を行う。
- ・コアメンバー、サポートメンバー1人を入れた少人数のグループ分けを行う
- ・4つの指導ポイント
①環境整備 ②体重移動 ③支持基底面の確保 ④身体をねじらない
この4つのポイントは再度説明し現在現場で中心として使用している福祉用具の使用のみ技術講習を行う。(終了次第他の項目を指導)

施設内での課題 腰痛調査と対策について

	項目	2021年12月	2022年12月
腰痛 あり	常に痛い、またはよく痛みがある	21.4%	16.7%
	時々痛い	52.3%	45.8%
	合計	73.8%	62.5%

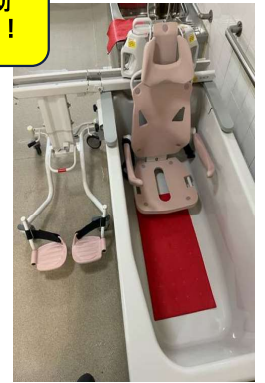
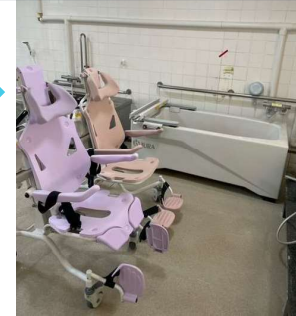
アンケートから分かったこと

- ・浴室リフトの導入以外にも福祉用具の導入や改善が必要な場所、介助場面がある。
- ・職員から意見が聞かれるようになったことはノーリフティングケアの意識が良い方向へ変化している？

浴室リフトの導入



浴室リフトを使用することで介助なく浴槽内外への出入りが可能！！



以前は職員2名で抱え浴槽内外への介助を行い腰痛の原因となっていた！

ノーリフティングケア 3カ年計画 残された課題

3年目の残された課題

- ① 法人グループ内でのノーリフティングケアの普及活動
- ② 地域の事業所向け体験会・勉強会の実施。

今後の課題

- ① 地域におけるノーリフティングケアの中心となる
- ② 法人全体で取り組む環境作り
- ③ 今後も在宅生活を支援できる施設を目指す。

ノーリフティングケア 3カ年計画

